

# 補習校だより

2020年1月20日発行

西暦 2020 年になりました。しかし、イランでは激動の年明けでした。未だにこれからイランはどうなっていくのかという不安はありますが、今は落ち着き私たちの日常生活に大きな支障はなく、補習校を続けることができます。

今年度はノールーズを挟んで残り 4 か月です。2020 年 5 月中旬に行く予定の修了式を、今年も無事に迎えられる事を願っています。



## 今月(バハマン月)の予定

	イラン暦	西 暦	
第 16 回目授業	1398/11/3 パンジシャンベ	2020/1/23(木)	通常授業
休 校	11/10 パンジシャンベ	1/30(木)	連 休
第 17 回目授業	11/17 パンジシャンベ	2/6(木)	通常授業
第 18 回目授業	11/24 パンジシャンベ	2/13(木)	通常授業

## 行事報告書初め

1 月 2 日の補習校では「書初め」を体験しました。保護者有志と日本人学校沼部先生の指導のもと、補習校創立以来、初めての書道教室が実現しました。前年度から計画し、手分けして道具や半紙などを一時帰国した際にそろえたりしたお陰です。



初めて書道を経験した補習校生も多く、字を書く時の姿勢、道具の使い方、基本的な字の成り立ちを知るきっかけとなり、皆新しい経験をとても楽しんでいました。

日本の伝統文化を受け継ぐ、などと言うと大それていますが、私達の知っている日本文化を伝えていく事ができたのは大変嬉しいことです。補習校保護者にとっても素晴らしい経験となりました。



## カルタ遊び

1月9日には休み時間に、カルタ遊び、福笑い、百人一首を楽しみました。降雪や現地校の大気汚染休校の補習などで参加できなかった生徒もいて人数がいつもより少なかったのですが、カルタ遊びと福笑いをするグループと百人一首をするグループに分かれて遊びました。

散らし取りで行う百人一首は希望者で12月から少しずつ練習していたので、当日の手札を取るスピードは最初より大分早くなり、手札の数が残り少なくなると、皆

とても集中して心地よい緊張感がありました。

情勢不安が心配される中でしたが、せめて補習校では明るく過ごしたいと願う、そんな一日でした。



## ☆作文紹介☆

☆書初めの感想文を紹介します。

「書道体験」 四年 小林紗也

ぼくは今まで書道をやったことがありませんでした。少しむずかしかったのでむ中になりました。

ぼくは字をきれいに書きたかった。でも、白い紙に黒いすみで書くとすごく目立ってしまい、とめる所やはらう所などをしっかり書かないときれいになりません。

もっとたくさん書いたら、もっと字がきれいに書けたと思います。

ぼくは「本」の漢字を書きました。「本」は、はらいがあつてむずかしかったです。

「書道をして」 六年 かとうルミナ

一月二日の木曜日に日本語補習校で書道イベントがありました。

私は、書道は生まれて初めてでした。

今回りえさんから、書道する時の正しい姿勢やふでの持ち方、とめやはらいなど色々教わりました。

私は「令」とえとのネズミの絵などを書きました。

えんぴつと違って、ふでの使い方文字の表現が変わるので、きんちょうしました。

今回は時間があつという間に終わってしまい、「優」の文字が書けず残念でした。

もっと書道をしていたかったです。

それから、自宅にもどってきたあと、書いた書道の紙をかべにかざりました。

☆中学部、現代版「春はあけぼの」を書いてみよう。

中学部三年 鈴木沙奈



春は花。色とりどりできれいなものは言うまでもないが、咲こうとしている力強いつぼみにも趣がある。

夏は夜。祭に出かけて花火の美しさに声もなく立ちつくすとき。

秋は紅葉。いちょうと重なり合つて混じり合う赤と黄色は興味深い。

冬は朝。寒い中もう少しと、布団の中で眠るとき。

## ☆中学部、「中学生の携帯電話の携帯電話の使用は原則禁止すべきだ」という論題に対するの論述文

「中学生の携帯電話の使用」 中学部三年 田中咲良

私は中学生の携帯電話の使用に条件付きで賛成です。

今の時代、子供たちも携帯電話を持っています。そのお陰で、手軽に新しい情報を得られます。私は携帯電話のアプリを使い、たくさんの歌手や俳優を知ることが出来ました。緊急時はもちろんのこと、日常でも家族と連絡を取れ、安心です。

気を付けなければいけないことは、長時間の使用です。学習の時間が減る原因になります。携帯電話の長時間使用のため、携帯中毒になり、他のことに手がつかなくなるので使用時間を決めます。それが賛成する条件です。



☆最後に五、六年生クラス「最近のできごと」について書いた作文を紹介します。

「イラン」 六年 田中良杏

最近、イランでいっぱい事けんが起きています。

イランにある日本の会社や、日本人学校の人達は、自分の国へ帰っていきました。戦争になってほしくないです。すごく悲しいです。

## 編集後記

近頃は平和の有難さを噛みしめています。それまでは連日のように重大ニュースが流れ、どこの国の報道機関かによって報道される内容が違っていました。何が正しいのか自分達で考えることが重要だと実感しました。

イラン永住者の私たちや家族にとって、イランでの生活は切っても切り離せないものです。今後の情勢に注意して、補習校でも柔軟に対応していきたいと思います。